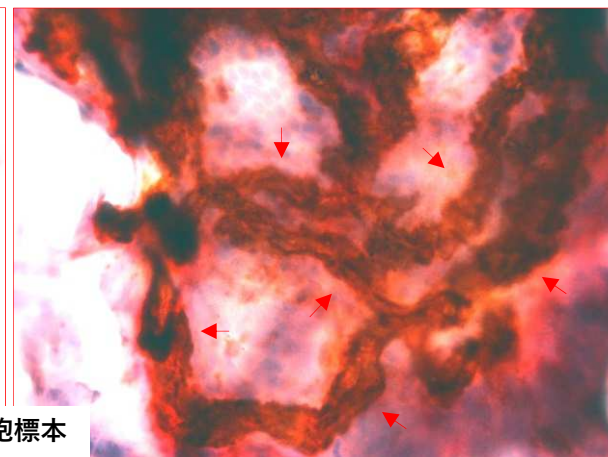
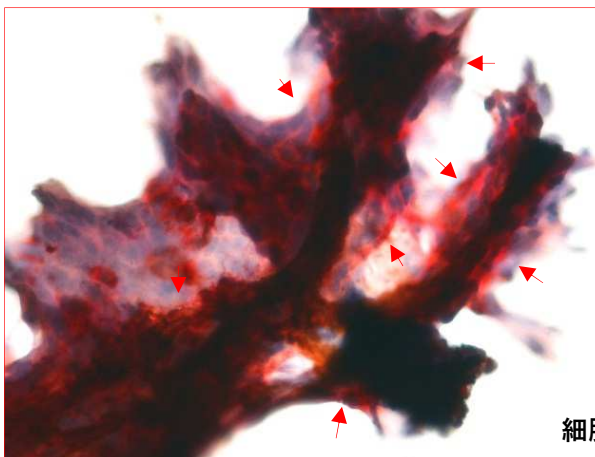
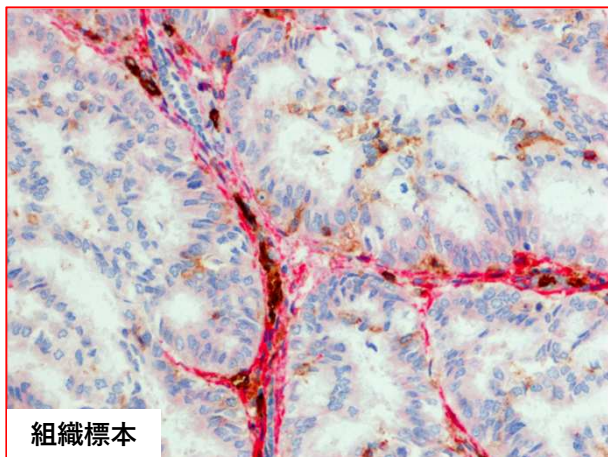


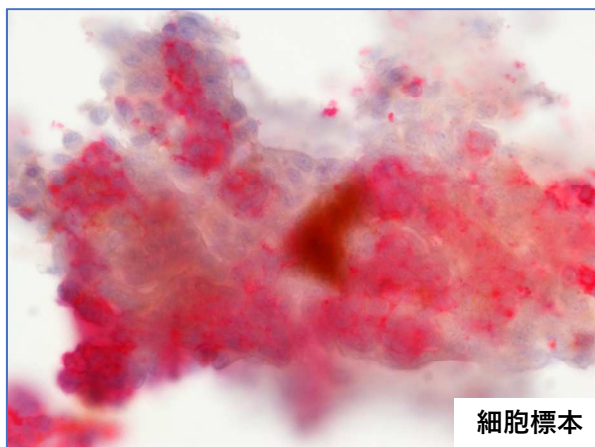
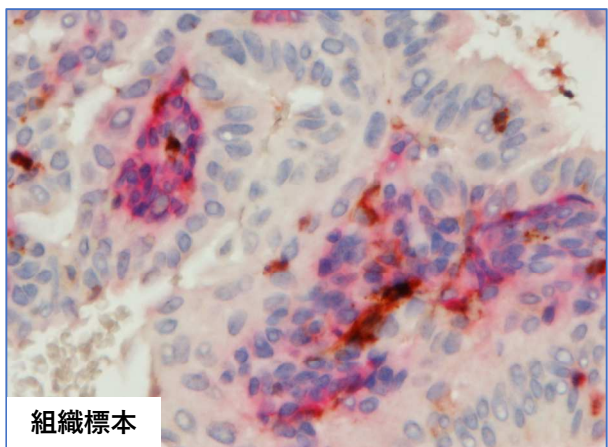
子宮内膜癌での細胞診断における、CD10およびCD31の発現パターンは、腫瘍性血管間質の認識に有用である

✓ 子宮内膜癌の腫瘍性血管間質



腫瘍性血管間質はCD10(赤色染)を発現し、そこに含まれる血管内皮はCD31(茶色)を発現している。

✓ 内膜腺間質破綻の化生変化は、細胞内に含まれる内膜間質凝集塊によって特徴付けられる



・ CD10の発現は子宮内膜病変において、異なる2つのパターンを示した。

・ 子宮内膜腺間質破綻は内膜型間質に、子宮内膜癌は腫瘍性血管間質に関連していることが明らかになった。

化生変化では、CD10陽性(赤色)の内膜間質細胞凝集塊内にごくわずかに茶色のCD31陽性シグナルが見られた。